

プロジェクト管理番号	規制特例提案事項管理番号	規制の特例事項(事項名)	規制の特例事項の内容	具体的事業の実施内容	提案理由	プロジェクト名	都道府県	提案主体名	プロジェクトの名称	提案概要
1250	12501020	短期滞在査証取得手続きの緩和	企業進出に向けての事前調査に際しての数次短期滞在査証(マルチビザ)の発給手続の簡素化	本市が立地を勧める中国企業(IT、貿易等)に限り、6ヶ月間などの期間を区切って、外国人が日本へ事前調査に来る場合は、本省経伺を行わず、在外公館限りで数次短期滞在査証を発行することができる	現行では、査証官が特別の理由があると認めた場合のみ、本省経伺のうえ発給することができるが、規制緩和を行うことにより、査証を発行しやすくし、本市へ進出するための事前調査が行いやすくなり、企業進出の促進を図ることができる。	##	福岡県	北九州市	北九州市国際物流特区計画	アジアに近いという地理的優位性、充実した社会基盤等の北九州市の特色や響灘地区の大水深港湾の整備等の既存プロジェクトに規制緩和を加え、北九州市のポテンシャルを顕在化することで、産業の集積、港湾の国際競争力の強化を目指し、地域経済の活性化を行うもの。
1315	13151030	台湾からの旅行者(台湾地区外国人旅行者)の与那国島来訪時の査証免除	姉妹都市花蓮市との地域間交流の発展と人的往來の促進に向けて、台湾からの旅行者(台湾地区外国人旅行者)の与那国島来訪時における査証免除を求める。 関連事項: ・2005年日本国際博覧会への外国人旅行者の来訪の促進に関する法律の施行による2005年9月11日～9月25日間までの期間限定査証免除の恒久的措置	与那国町では、昭和57年10月の台湾・花蓮市と姉妹都市締結以来、「姉妹都市友好親善交流訪問団」の相互訪問をはじめとする各種事業を鋭意実施し、来年2006年には姉妹都市締結25年を迎える。 中学生ホームステイ事業(平成4年～13年)、中国語講座(平成7年～14年)等の関連事業に關しては、町の財政事情等により現在中断状況にあるが、姉妹都市締結25年を新たな契機に、花蓮市との国境交流を基軸とする地域活性化事業、民間の積極的参画による経済交流・草の根交流など、多角的な国際交流を推進する方針である。 検討中の具体的事業: 姉妹都市締結25年記念事業、「トライアル2006(仮称)」(与那国・花蓮間の直接航行)、花蓮市からの団体観光客等の誘致、修学旅行者等の与那国町・花蓮市の相互訪問等。 将来的には、防災・医療・産業・環境・文化など多様な領域・テーマでの国境を越える地域間協力、各分野における人材育成・ネットワークの形成を目指すものであり、本件はその基盤となる「人的交流」の基礎条件となるものである。 また、成長めざましい近隣アジア諸国における海外旅行ブームへの対応は「観光立国日本」にとって重要な課題であり、与那国島の立地特性を活かした新たな国際観光ルート(台湾・与那国・沖繩/本土)の創出は、日本人観光客だけでなく、近隣アジア諸国からのインバウンド誘致にも寄与すると考えられる。 例)台湾旅行者のノービザ滞在と沖繩/本土へのトランジット、台湾旅行者との連携による外国人観光客の誘致等 付記: 平成17年度「全国都市再生モデル調査」の公募(内閣官房都市再生本部)において、与那国町「姉妹都市花蓮市との国境交流と多様な観光交流を通じた新しいまちづくり」(どなんちま交流・再生プログラム)が採択された。(6月24日)	来年2006年は与那国町と花蓮市の姉妹都市協定締結から25年の節目を迎える。 花蓮市は花蓮県13都市の一市で台北市から南東へ225km、人口約17万の都市で、横貫公路・蘇花公路と北迴線の中心地として交通の要となっている。また、花蓮港は10,000トンクラスが船舶が入港可能で、大理石や木材などの積み出しで発展し、台湾三大国際港の一つである。更に、空の玄関も開港し、豊富な観光資源によって観光都市としても急成長している。 一方、台湾から日本への観光客は北海道から沖繩まで全国的広がりを見せ、沖繩では10万人余の入域客が見られる。こうした現状の中で、最も近接する与那国島への台湾からの直接入域客が0人であることは極めて不自然である。近くて遠いという現状は、24年の姉妹都市関係があるにもかかわらず、与那国・花蓮間の地域間交流を阻害し、地域活性化や経済活動に関わる様々なチャンスを逃してきたことなど、多大な不利益をもたらしている。 国境の島・与那国が直面してきたこのような問題こそ、「構造改革特区」の導入等を通じて克服すべき課題であるとの認識に立ち、「国境交流特区」構想を提起するものである。特に、台湾からの旅行者の与那国島来訪時の査証免除は、上述の問題課題に突破口を開く上で極めて重要な方策の一つであり、同時に、姉妹都市花蓮市との国境地域間の友好親善・国際的な相互理解と人材育成、さらに、わが国の国際観光立国推進にも具体的に寄与するものと考えられる。 地域の再生と活性化に向けて国境交流を推進するにあたり、「人的交流」の促進は最も重要な課題であり、その基礎条件の整備として本特例事項を要望したい。	##	沖繩県	沖繩県と那国町、合資会社福山海運	与那国「国境交流特区」構想	日本最西端の国境の離島・与那国島では、様々な離島音・孤島音とともに恒常的な人口減が続き、現在の定住者は1,718名。最盛期の7分の1まで減少した。本「国境交流特区」構想は、姉妹都市花蓮市との地域間交流を軸に、人口流出に歯止めをかけるための島の活性化、国境の国土を守る島民の生活・定住条件等の向上、次代を担う国際的人材の育成、国境離島における安心・安全と豊かな暮らしの実現、国境地域間の友好親善等を指し、以下の特例事項等を要望するものである。「国境離島型開港(開港要件の緩和等)」、花蓮港との直接航行(短国際航海/60海里航行許可の緩和等)」、査証免除(台湾地区外国人旅行者の来島時の査証免除)